

アセフ



ACEF 第40回 スタッフ一

2011. 3. 20 ~ 3. 29



<はじめに>

• ACEFとBDP

1971年に独立したバングラデシュはアジアの発展途上国の一つですが、現在、国を挙げて新しい国造りに励んでいます。しかし、識字率に低く、政府の統計においても49%です。新しい国造りに「教育」が欠かせないものであることは、言うまでもありません。

明治初期、アメリカからの宣教師が、日本の教育(特に女子教育)を始め日本の近代化に大きく貢献したように、今、バングラデシュで最も必要なことは初等(基礎)教育です。

1990年5月ミナ・マラカル女史は、バングラデシュの首都ダッカ郊外において、初等教育に取り組むキリスト教系NGO「サンフラワー教育計画=SEP(現BDP)」を創立しました。このマラカル女史の呼びかけに応え、アジアキリスト教教育基金(ACEF=エイセフ)は、バングラデシュの子どもたちに「手子屋を贈ろう」と1990年10月に発足しました。

<ACEFのHP>より

ACEFとBDPは「共働」する
パートナーとして活動しています!!

子どもたちは勉強が
大好きです。



バングラデシュ 概要

国名...バングラデシュ人民共和国

首都...ダッカ

面積...144,000km (日本の約4割)

人口...1億4,660万人(2009年7月)

言語...公用語はベンガル語

通貨...タカ

独立年...1947年8月14日 パキスタンの一部として英国より独立
1971年12月16日 バングラデシュとして独立

宗教...イスラム教(89.7%)、ヒンズー教(9.2%)、仏教(0.7%)、キリスト教(0.3%)

時差...日本との差は-3時間



* バングラデシュの国旗



バングラデシュの国旗は緑を下地に赤の円が描かれており、日本の国旗と似ています。下地の緑は豊かな大地を、赤い円は昇りゆく太陽と独立戦争で亡くなった人の血を表しているそうです。

ツア-中の3月26日は独立記念日だったので多くの建物に旗が掲げられていました。

○ 衣服 ○



バングラデシュでは毎日のように着ました(笑)!!

＊ サロワ・カミューズ ＊

バングラデシュの未婚女性が着る衣装です。

＊ パンジャビ ＊

バングラデシュの男性が着る衣装です。
ちなみに「レンギ」という部屋着があり、
スボンの代わりにスカートを巻きます。

男性陣もみんな
とても似合っていました!!



＊ サリー ＊

既婚女性が着用します。今回、BDPの
先生方に着せていただきました!!!!

＊ メンディ ＊

衣装ではありませんが、ヘナという植物染料で手に描くアートです。
私たちは手や足に模様を描いていただきました。この模様は
約1〜4ヶ月程もつようです!! とても素敵です!!



きれいな
オレンジ色になります♡





食事



スタディツアー中は、私たちもベンガルの方と同じように、右手を使って頂きました。基本的知識として、まずイスラム教では豚肉がご法度でインド等のヒン두教では牛肉がご法度です。

カレーには、魚のカレー、野菜のカレー、肉のカレー、その他の食材のカレーと大別できます。

またルティというカレーと一緒に頂く、カンを小さく薄くしたようなパンで、朝食でよく頂きました。





★ようはい★



☆識字率：44.8%（女性53.4%、男性51.3%）

☆教師一人当たりの生徒数は日本の約3倍

（日本：小学生→20人、中学生→16人、高校生→10人）

☆小学5年生までが義務教育

→途中でドロップアウトする学生が多い

5年生まで残るのは全体の約2割

朝は工場で働いて、自分で稼いだお金で通うことも
高等教育機関への進学は非常に少ない

☆バングラデシュで女性の自立は困難であり、教育も盛んでない





言葉

バングラデシュはベンガル語という言語を話します。
ここで、私たちが覚えてベンガル語を紹介します。

(ほんの一部)



- ☞ トマール ナム キ? "あなたのお名前は?"
- アマル ナム 〇〇〇 "私の名前は〇〇〇です。"
- ☞ ドン/バート "ありがとう"
- ☞ アーミー Bangladesh ポキョンドコロ "私はバングラデシュが好きです"
- ☞ シュンドール!! "すごい!!"
- ☞ ティカゼ? クティカゼ? "大丈夫?" "大丈夫"
- ☞ ショバイ ハシタオニ! "みんな笑って!"
- ☞ ベシ モジャ♡ "とてもおいしい♡"

〈番外編〉

- ☞ コラ "バサバサ"
- ☞ ココ or ㄗㄗ "犬"
- ☞ イバカ "扇子"

ちなみに私たちには
キダグループ(お月夜室)
たグループ)がありました♡

- ☞ ダン, バン, ショジャ "右, 左, 前"
- ☞ ボロ, チョト "大きい, 小さい"
- ☞ ハー, ナー "はい, いいえ"
- ☞ エタ, オタ "これは, あれは"
- ☞ クパロ◎! "すばらしい!"



Bangladesh MAP

BDPのBoss☆
アルバートさん♡
おもしろくて
優しい♡
ステキな
方です♡

とて オシャレ♡
カッコイイ
ラハチさん

みんなで行った
ネトロコナ♡

ガジール県の
プーバイル地区♡

首都ダッカ

歌に合わせて
おどり始めた
のは...

お買い物にも
来ていて
くまいました!!
ア>ジラさん

私のドライバー
ニキルさん♡
←イケメンタタ
ヤシンさん

日本とバングラを愛する
ハモントさん♡
歌がとっても上手!!

みんな大好き
ハビルさん♡

エクレスさん♡
おなか♡好き♡

とっても優しく
ステキなお姉さん ☆
ア>ザさん ☆

真剣な
オシムさん

はじけと
ころなる。ステキタタ

Oneku Dhonnobad
for BDP members!!

かき線香の
Tさん!!

😊ネトロコナで料理をしてくれた方々

スタディーツアー

メンバー



SASA



NORIKO

MAKIKO

KUMIN

YUUKA



ASAMI



SHIORI

COOKIE



MAK



KYOKO



第40回 (2011年春) ACEF バングラデシュスタディーツアー 日程

- 3月20日(日) 午後 成田発 香港で1泊
- 3月21日(月) 午前 香港の街を散歩 開会礼拝
午後 香港発 ダッカに到着 フォービールへ
- 3月22日(火) 午前 オリエンテーション ネットコナへ出発
午後 ショッピング ネットコナに到着
- 3月23日(水) 午前 BDPスクール訪問(ベタティジュレバ)
午後 BDPスクール訪問(ショワリカンダ)
- 3月24日(木) 午前 BDPスクール訪問(1アバラ)
午後 BDPスクール訪問(バットリー)
- 3月25日(金) 午前 BDPスクール訪問(シムラター)
午後 サリーイ本馬車、メンディ
- 3月26日(土) 午前 ネットコナ出発
午後 フォービール到着
- 3月27日(日) 午前 BDPスクール訪問(Lalkuthir)
午後 Culture Show
- 3月28日(月) 午前 ウッタア・アロン・マーケットに買い物
午後 Wrap up ディスカッション 開会礼拝 フォービール出発
- 3月29日(火) 午前 香港で乗り継ぎ 成田着

3月20日 SUN

<日程表> **NARITA** 

12:00 成田空港に全員集合。

14:30 日本出発。

19:30 香港着。

21:00 夕食。

23:00 就寝。



スタディーツアー はじまりはじまりへ

夕キの後姿。
ステキ



ん？ あっ！河見失生！！



又 逢うて逢うて...
はしり☆



今日の旅行で なつと有名になつた
バス

みんなステキな笑顔



ついに
乗りこます



HONG KONG

到着-!!

地震の影響でフライトが遅れ、
香港に1泊することになりました。



空港

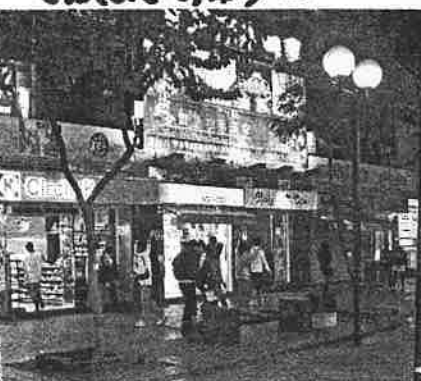


百万ドルの夜景

食後の中国を
みんなで散歩



夕食は中華料理を
いただきました!!
おいしかったー♡
本当に楽しかった♡
ゆづり♡



みーちゃんだけ
フレでない奇跡々々



↑宿したホテル。
とてもキレイでした♡



ホテルの近くは、高級クラブや
レストラン、映画館が本場!!
この日はみんな疲れた、早めに
就寝しました... ズzzz

3月21日 MON

太極拳と思ったより人数...
ってことで皆でラジオ体操が

<日程表>

- 6:30 起床
- 7:00 太極拳を見に行く
- 7:10 ラジオ体操
- 7:30 開会礼拝(MAK)
- 8:30 出し物の練習
- 9:00 朝食(バイキング)
- 10:00 散策
- 12:00 昼食
- 12:50 ホテルに戻り、休憩
- 14:30 ホテル出発
- 17:25 香港(発)
- 20:00 ダッカ(着)
- 21:00 フォービル事務所到着
- お茶、自己紹介
- 夕拝
- 就寝



♪ 香港散策! 海沿いの道は最高でした!!

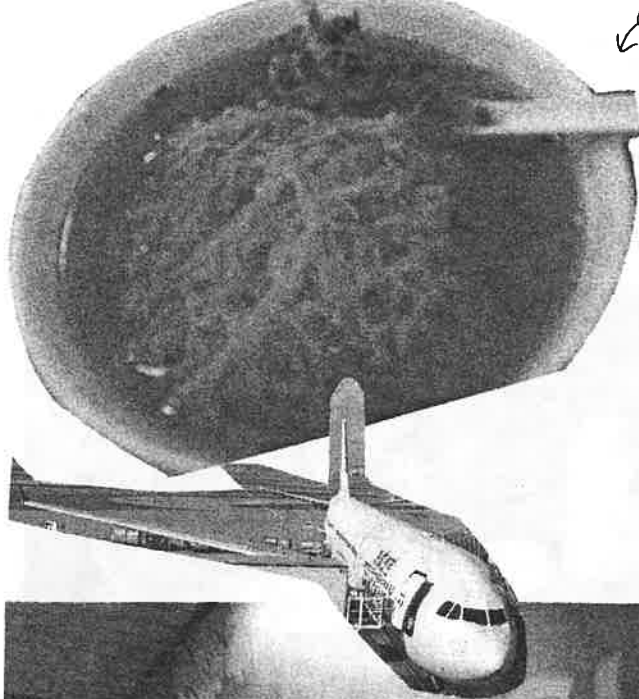


そのまき外で
出し物の練習!!
タノは気持ち良か
たです合
くっきーさんが
面白くて、皆
爆笑してました!!

12

ジャッキー・チェンの手型に、しおちゃんも
嬉しそうに自分の手を叩きました!!





お昼に食べたウィンタン麺。細麺でボリューム満ち
ウィンタンにはたっぷりエビが入って本当に美味!!
MAKのおごりです。ごちそうさまです♡♡



皆はしゃぎすぎてお疲れモード!!!
前からあごすくさんしおり...爆睡中。
そい横で笑うまき!! いい写真ですね♡



ついにバンラデシュ到着!! 空港バスターも
キレイで驚きまじこ
皆ワワワ・ドキドキです...ム



夜はベラングビネレ楽しかった!
担当はのりこさん。



⑧BOPの施設に行く途中...車と人の近さに驚きでした。
クラクションがたまに鳴っていて、今にもぶつかりそうだった
のび皆「カーキヤ」言いながら来、いました。

3月22日 TUE ♡

<日程表>

- 6:00 起床
- 6:30 ラジオ体操
朝拝(きょうこさん)
- 7:30 朝ごはん
- 8:30 オリエンテーション
- 10:00 ネットコナへ出発 ☆
- 14:00 Shopping at Mymensingh New market
- 16:00 ネットコナに到着
お昼ごはん
- 17:00 夕日を見に散歩 ☀
- 18:30 帰宅 星空や夕日が見える ☆
- 21:00 夕ごはん
- 22:00 夕拝(COOKIEさん)
月明かりを頼りに散歩 ♪
就寝

バンガラデュに
来て初朝ごはん♡
レティにバナナを
巻いてクレープ風
にするのって
オチモシヤ♡



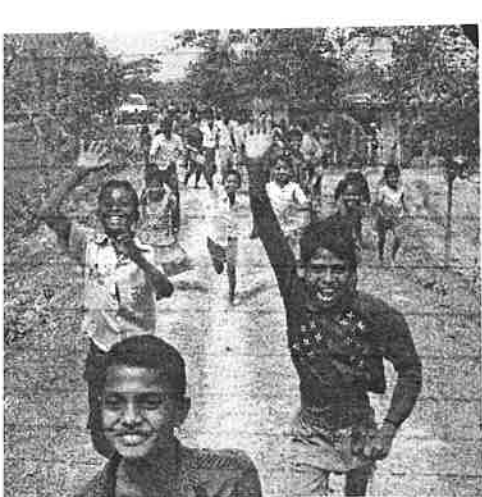
オリエンテーション中!!



サロワカミューズ
きれいなしゅうのものか
たくさんで選ぶのって
楽しいです
女子チームは早くに入浴のもの
即決でした ☺

Shopping
たかいね♡





車のあとをずっと走って追いかけてきてくれました!
子どもたちはとても
元気でした♪



お宅訪問会



初☆川下り

とても暑かったけれど気持ち良かったです!
けど、浸水したため降りました...



たくさん
楽しめました♡



ハムドゥ

チチチチチミ



シヨワリカンダ



クッキーエンの
けん玉

♪



nese Carry ♪ ♪ ♪ ♪ トオン・クツクツ



シヨワリカンダの先生方😊



なちどびは
大人気でした♡
17

子どもたちも
うたっていました!!

ミューズ



3月24日THU

出発前にみんなバシャリッカン回

< 日程表 >

- 6:00 起床☀️
- 6:30 ラジオ体操
- 7:00 朝拝 (SHIORI)
- 8:00 朝食🍳
- 9:00 BDPスクール訪問、お宅訪問
(1ア・1ラBDPスクール)
- 13:00 昼食🍳
- 15:00 BDPスクール訪問、お宅訪問
(バットリーBDPスクール)
- 20:00 夕食🍳
- 21:00 夕拝 (KUMIN)
- 22:00 BDPスタッフ、河見先生、学生で
シェアリング♡
- 23:00 アルバートさん、学生で
シェアリング♡



サロワ
ミューズ
パンジャビ
8番の全真
にこが
初めて♡



初めての
川渡し



みんなとても真剣に
聞いています



12:00
BDP-IV



ながく、きーさんによる

鍛治

披露🎭!

18



ミンガラの男性は腹もボーンモイウメンです◎!



ヒンドウの神々々々



お昼ご飯♡ナスの天ぷらはバシモジ◎♡*



下が男で上が女です◎

パトリック BODスクール



みんなたくさんの教科書と
金貨筆1本を大切に使い、まいた。



このリ子さん発案のうちわ大活躍◎

学校交言方問々後
ネットコナ宿舍の前
で子どもたちと一緒に
大縄やけん玉
で遊びました◎



大縄もけん玉も子どもたち
の吸収力の速さにびっくり!



たまご
をもつ
ヤジジさん
そを支援る
ママさん



3月26日 SAT

ネロコナ 最終日...

<日程表>

- 7:00 起床。
- 7:30 ラジオ体操。
- 8:00 朝食。
- 9:30 ネロコナ出発。
- 14:00 フォーバールの事務所に着。
- 14:30 昼食。
- 16:00 お散歩。
- 20:00 夕食。
- 21:00 夕拝。
- 23:00 就寝。



ネロコナスタッフとの
別れ...

山本大博
ハセルさん♡

イケメン
ヤジンさん♡



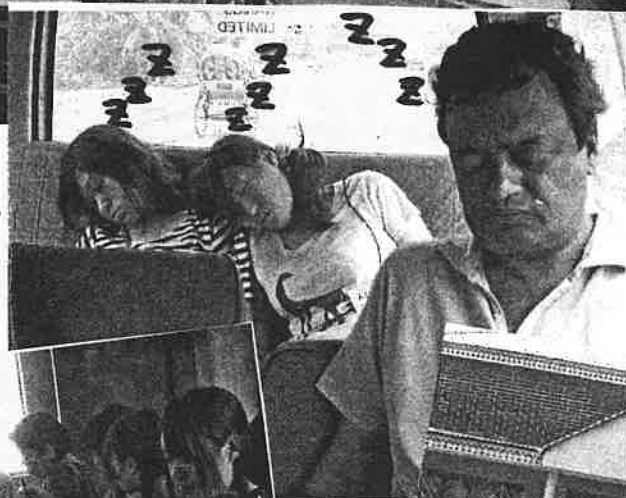
来は
ハセルさんに来てね!

お別れが つかずぎました...





たくさんの子供たちが
見送りに来てくれました
BEST SHOT♡♡



お4号に乗って
出発!!



プロバイルの事務所に着いたら、お昼を食った後、
みなでお散歩♡♡次の日のカルチャーショーに向けて
早めの就寝をとりました。



3月27日 SUN

日程表

- 06:00 起床
- 06:30 ラジオ体操
朝拜 (MAK様)
- 08:00 朝ごはん
- 09:00 BDPスクール訪問
* Lalkuthir school *
- 10:30 お宅訪問
- 13:00 お昼ごはん
- 16:00 カルチャーショー ☺
- 20:00 夕ごはん
- 21:30 夕拜 (KYOKOさん)
- 22:30 学生・アルバートさん・MAK様と
最後のおはなし
就寝 zzz...



授業の様子



Lalkuthir
school

最後の学校訪問です☺!!



* 5年生のクラス *
理科の授業で、ユツア
木・石を使って体の
勉強をしていました!

“大きな木のしたで”
“しあややかな夕日をたたこ”
をうたいました♡

お宅訪問台



釜戸やベッドなどの部屋にあって危険な
状態の家もありました...



皆ごほうを折ってくれました♡



Lalkuthir school の子どもたち

笑顔

が素敵でした

◇

◇



「福島の方々に届けて欲しい」と
いう想いをこめて織り鶴を
つくってくれました!!
本当に感動しました!

★Culture show★



ソーラン節!!

ダンス



すてきな歌やダンスを 観てくれました♡



SAKANA



素敵な笛を披露



ワッフィーマン



Japanese carry

BPPのスターの方と
たくさん歌い、たくさん
おどりました



25



オムニ



See you next...



3月28日♡😊

<日程表>

- 6:00 起床
- 6:30 ラジオ体操
車拜 (COOKIEさん)
- 7:30 朝ごはん
- 9:30 ウッタラ・アーン・マーケットへ出発😊
- 13:30 あいごふん
- 14:45 ラッポアッポ・ディスカッション
- 16:50 閉会礼拝 (MAK様)
- 18:30 70-バイル出発☺️
- 19:30 ダッカ空港到着
カトマンズに向けて出発☺️

バングラデフの
最後の車拜



ショバイ
バシダオ😊



アリバートさんに誘われお散歩😊
朝の空気が気持ちよくて景色もスバラシ!!



我らが運転手!!
オシム😊

NIPPON
Cosmetics & Gift Corner

ダッカの市内。
高いビルがたくさん!!
車もたくさん!!
人もたくさん!! でした。26

バングラの街並に
「NIPPON」の文字がバ!
びくりにいた (・ω・)





私たちのあ買い物に
ついてきてくれた
アンジェラさん♡
ブレスレットなど
選んでもらいました♡



たくさんあ買い物かできて大満足♡
COOKIEさんとらささんとは疲れ気味...?



アルバートさん

ヘモトさん

BDPからチャーを
もらいました。
食欲度にはぐらいいいす!!

I miss You x₂



あおれか
さけびました
アイルランド
バンガラデシュ!!



3月29日 TUE

< 日程表 >

22:00頃 ダッカ 出発 (カマンズ経由)

機内食 8時

6:30 香港到着

7:30 朝食 8時

河見先生おごりのエビワンタンメン♡

8:45 香港出発

昼食 (機内食) 8時

13:50 日本到着 ☆

飛行機に乗ったうさぎにみたな暴睡^{ミミ}
2:00頃カマンズ到着のそれから機内食を
食べました8時果ててこれは夕食?それとも
夜食(ハ)? 策 それからまたまたミミ暴睡の
明け方6:30に **香港到着!!**



ダッカ空港到着が多人がタラシBDPスタッフとの別れは
さびしい系でした(ハハ)と
ちゃんと宿舎でしてはかた(ハハ)と笑



GOOD
BYE

最後にもう一度エビワンタンメンが食べた!!とて!!
空港のお店へ今朝7:00頃から11:00頃エビワンタンメン
を食べす私たち... どこまでも健康どキダグールフです😊



にいてもみたななんとなく目眩そうだな(ハハ)と

エビワンタン
やっぱりとても美味♡!!
MAX 持ち帰りまでする♡



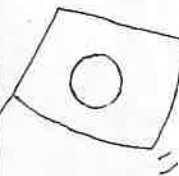
エビワンタンで始まり
エビワンタンで終わる
今回のスタディーツアー
バングラデシュのめばらず
香港の良さも見え
ました♡

モジャ♡



ダジャレキングのクリエイト

そしていよいよ
香港出発
地震の影響か
飛行機はぐうぐう泣いた。



もう日本に
帰ってきた

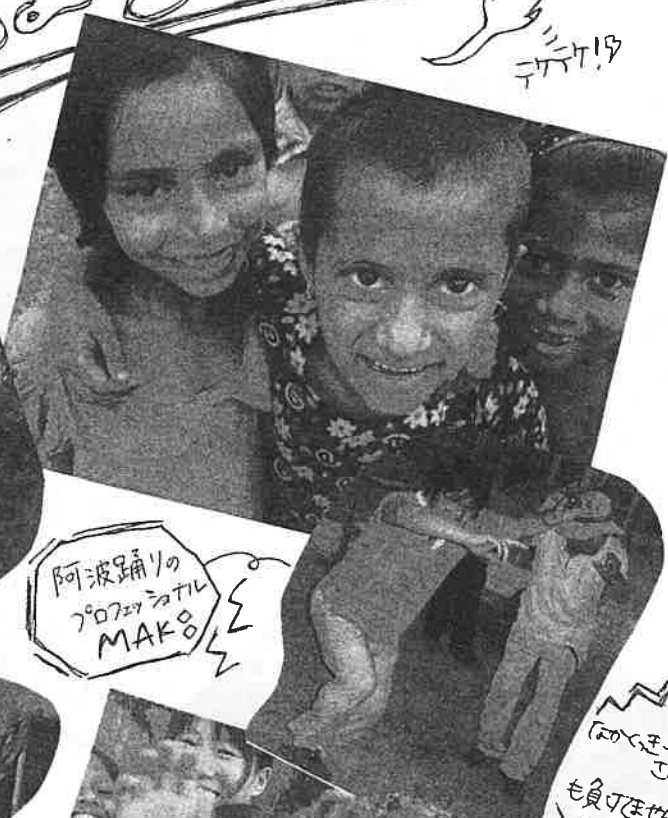
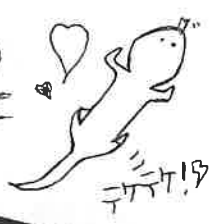
そして予定より40分早く

日本到着!!

帰りの飛行機でゆうかがお腹の調子が悪かったみたいだけど、この10日間、10人全員誰1人体調崩さず毎食いかりいっぺい食べ、無事に日本に帰ってくることができました。予想外の香港1泊でまさかの20国に訪れた今回のスタディーツアー!! 毎日本当に楽しく、学ばせ事もたくさんあり内容が濃かったです◎! BDPスタッフはじめバングラデシュで出会った人々、そしてツアーに参加した10人!! 1人1人個性が強く、さすがに最高の思い出! <大スゴ> また近々集まりましょう♡♡♡ そして一体誰が一番にネトコナに1人帰ってくるのでしょうか? 来 では See you again

まだまだ良い写真
いっぱいあるよ集！

おぼろ



阿波踊りの
アポロアタリ
MAK



おぼろ
大好き



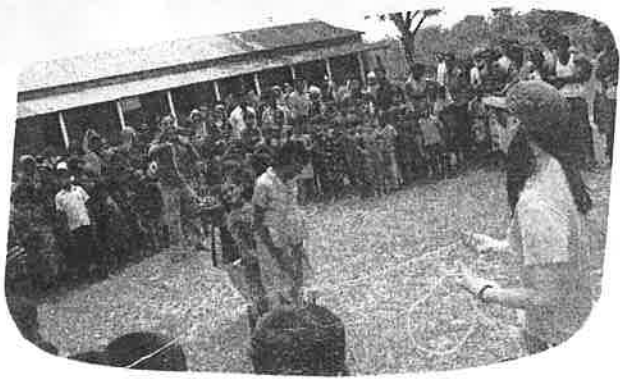
コレイイミン
チョット



少年ニケレさんの釣り
とても楽しそう！



いつもいつも
真剣に聞いてます。



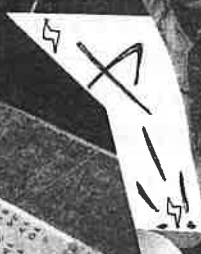
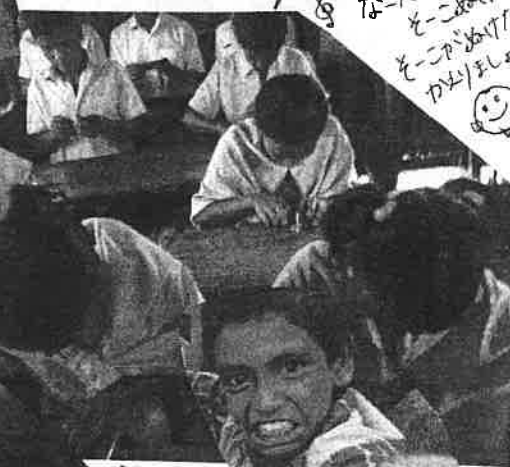
クミンお疲れ様



しゃばん玉
大人気♡



♪ なーべーなーべー
そーこあけー
そーこあけー
カキミ
😊



とっても上手に
折り鶴をくっ
くれば♡

パンダの
アイス屋さん😊



まず初めに、このツアーに参加することを許し、快く送り出してくれた両親に感謝いたします。

バングラデシュ・スタディーツアー出発の一週間前。東日本大震災が起こりました。私の故郷である福島県も、死者、行方不明者、建物の崩壊、原発の問題、たくさんの被害をうけました。地震が起きた時、私は東京にいました。今まで自分が経験した地震の中で、感じたことのない、とてつもない大きな揺れでした。急いでテレビをつけると、震源地は東北。一瞬にして、嫌な予感が過ぎりました。家族の誰に電話をしても、メールをしても全く繋がらず、時間が経つにつれてテレビで流れてくる情報は、自分の住んでいた町とは思えない映像ばかり。家族の安否も確認できず、テレビの前で、ただ呆然と立ち尽くすことしかできませんでした。

やっと母と連絡がとれて、家族の安全を確認できた時、バングラデシュの話になりました。正直、自分の家族が、自分の町が、被災してしまった以上、ツアーに参加することは、不可能だと思いました。しかし、母から返ってきた言葉は“こっちは大丈夫だから、心配しないで行っておいで。” その言葉におされ、ツアーへの参加を強く決意しました。その数日後、普段メールを打つことに慣れていない父からのメール。“マイペースでゆっくりと。” 厳しい状況の中、私の背中を押してくれた両親に、感謝の気持ちでいっぱいでした。行くからには、一つでも多くのことを学んで、感じて帰って来よう。それがその時、私にできる唯一のことだと思いました。

私が国際協力に興味を持ったのは、高校生の時に読んだ、山口絵里子さんの“裸でも生きる”という本がきっかけでした。彼女の強さと、行動力に感動し、自分も彼女のように強くなりたいと思うようになりました。そしてその時に、初めてバングラデシュという国を知りました。世界最貧国。一体どのような国なのか。その国で何が起きているのか。ネットや、人から聞いた情報ではなく、自分で経験すべきだと思い、この ACEF のツアーへの参加を決めました。

そして実際現地に行ってみて、感じたこと、考えさせられたことが、紙の上では書ききれないほど、たくさんありました。初めて現地の子供たちに会ったとき、道端からきれいな花をつんで、何度も渡してくれたことが、うれしくて、うれしくて胸がいっぱいになりました。左手に弟を抱き、片方の手で私の手を握ってくれる女の子もいました。朝早くから、私たちの宿舎の前に来て、自分がその日の朝に摘んだ、一番きれいな花を渡そうと、ずっと待っている子もいました。川を渡るとき、びしょびしょになりながら、ボートをおしてくれたり、いつまでも手を振ってくれる子供たちがいました。私たちが移動する車に飛び乗り、それに振り落とされても、追いかけてくれる子もいました。一人一人が、本当にかわいくて、素直で、元気な子供たちでした。自分の心の不安や迷いを、子供たちの笑顔

が癒してくれました。

バングラデシュに行って、一番印象に残ったのは、スラムの学校を訪問した時のことでした。スラムと聞くと、危険、治安が悪いという印象が強く、スタッフの方からも、帰ってきたら必ず手を洗うようにと言われたので、一体どのような所なのか、その場所に行くまで、私には未知の世界でした。実際行ってみると、学校のすぐ近くにはお墓がたくさんあり、学校までの道もでこぼこで滑りやすく、正直、勉強をする環境に適しているとは言えないと思いました。そのスラムの学校に通う子供たちが、地震の被害にあった福島の子供たちに渡してほしいと言って、自分たちが折った折り紙を、渡してくれました。バングラデシュに来て、いろいろなことに感動して、いろいろなことを考えて、ほぼ毎日涙を流していた私ですが、子供たちの前で泣くことはやめようと、自分の中で決めていました。しかし、この時だけはこらえることができませんでした。名前も、顔も知らない子供たちのことを、心配して折り紙を折ってくれたバングラデシュの子供たち。被災した子供たちの状況についての質問があり、今もなお、家に帰ることができず、十分な食事をすることができていないということを説明すると、学校の先生が泣いていました。生活が厳しく、生きていくことが精一杯な状況の中で、日本の子供を思う心の温かさに、感動しました。折り紙を福島の子供たちに届けるという約束。福島に帰れるようになったら、必ず届けます。

バングラデシュから、私はたくさんのものをもらいました。日本には欠けているものが、バングラデシュにはありました。自分が知っている人に優しくすることは、ある程度できることだと思います。しかし、知らない人に優しくしたり、思うことは難しい。このツアーに参加して、バングラデシュで、私はたくさんの友達ができしました。BDPのスタッフ、食事を作ってくださった方々、たくさんの子供たち……。特にBDPのスタッフは、一人一人が強烈で、絶対一生忘れられない、大切な友達になりました。最初は、なかなか話すことができませんでした。しかし、お互いに名前を覚え合うことで、少しずつ仲良くなることができて、本当にうれしかったです。プーバイルの事務所から空港に向かう車の中で、私は日本に帰りたくない、アルパートさんの腕にしがみついて離しませんでした。

バングラデシュは私の心を癒してくれました。だから今度は、私がバングラデシュのために何かしたい。そう思っています。これからの私の課題は、二つあります。一つは、国内でできる国際協力を続け、途上国の支援をすること。それと並行して、国際協力の勉強をすること。二つめは、地元の復興に努めることです。なんと言おうと、福島は私の大切な、大切な故郷です。家族、友達、愛するひとが、たくさんいる、大切な場所です。何年かかっても、何十年かかっても、必ず復興すると、私は信じています。そのために自分ができることを、して行こうと思っています。

最後に、地震が起こった状況の中、ツアーを挙行してくださった ACEF のスタッフの皆様、BDP のスタッフの皆様、チームのメンバーをはじめとする全ての方々に感謝いたします。本当にありがとうございました。

寄りそい、生きるということ

川上悠花

「行って本当に良かった!」、心からそう思えるスタディーツアーでした。想像したよりも、何倍も何百倍も楽しかったです。多くの事を学び、多くの事を得ることができました。本当に、本当に充実した10日間でした。

スタディーツアーを通し、私が今まで見てきた事がいかに小さく、表面的なものであったか、痛感しました。ツアーに参加し、私の視野は前より断然に広がったように思います。たくさんの事を経験し、シェアリングを重ね、多くの事を考えるきっかけとなりました。自分なりに考えたことについて、2つ書きたいと思います。

一つ目は“生きる力”についてです。今回のツアーを語る上で、やはり日本でおきた東日本大地震をなくしては語れないと思います。出発の10日前、日本を大規模な地震が襲いました。被害はとても大きく、日本から“日常”を奪いました。私は、このような状態でバングラデシュに行っているのだろうか、今は日本の支援をすることが先なのではないか、とても悩みました。そんな状態の中、ツアーリーダーである河見先生からツアーをどうするか、という確認のメールが来ました。私は感じている不安をそのまま伝えました。しかし、他のメンバーからすぐに「行きたい」というメールが届いたことを知り、意志の強さに驚きました。この仲間と一緒に行くのなら多くを学べるのではないかと、そう思うと同時に、私自身も行くならばしっかりとした意志をもっていこう、と思い自分がどうしたいのか考え直しました。そんな時、準備会最後の礼拝で“生きる力・強さ”についてお話して下さったのを思い出しました。日本がこのような状態にあるからこそ、バングラデシュの人々の生きる力・強さを知りたいと思い、行く事を決意しました。

バングラデシュでの生活は日本とは全く違うものでした。電気はありますが、停電をすることも少なくないですし、お風呂は水浴び、トイレットペーパーはなく水で洗う、ネトロコナでは水道もなく、井戸水をくみ上げ使っていました。食事は毎日カレーでしたし、洋服も限られたなかで選びました。行く前は、生活を想像しとても不安になったのですが、実際に過ごしてみれば、何の問題もなく過ごすことができました。また物が少ない分、私たちは“シェア”することが当たり前になっていきました。手を洗うときは、誰かが水をかけるかかりになったり、ポカリをつくる時は二人で分け合ってつくったり、寒ければ上着を貸しあった

り・・そういった事が自然と多くなりました。アルバートさんが「少ないものでも幸せになれる、少ないものでも笑顔になれる」と言っていたのがとても印象深く残っていますが、私たち自身、実際に感じる事ができました。そしてこれこそが生きる力なのではないかと私は思いました。ものが少ないからこそそれを大事にする、あるもので精一杯の生活を送る、分け合って生きる、その力が生きる力であり、強さなのではないかと思いました。私たちの普段の生活は周りにものが溢れているが故に、生きる力はどんどん弱くなっているように感じます。普段の生活を見直す必要がある、と感じる瞬間でもありました。

二つ目は“よりそう”ということ、です。バングラデシュでは多くの学校に訪問させて頂きました。特に印象に残っている事はネトロコナで学校を訪問させて頂いたときに、子ども達から日本の地震について必ず質問があった事です。ヘモントさんが丁寧に説明されていましたが、すでに知っている子もたくさんいて、なかでも原発についても知っている子どもがいたことには驚きました。また、BDPの学校に通う全ての子どもが、日本の“お友達”のために、1分間の黙祷を捧げ、1タカずつ募金をしてくれた、ということを知り、本当に感動しました。スラムの学校に訪問させて頂いたときにも、福島の子供達に、と折り紙で作った鶴をたくさん渡してくれ、本当に感動しました。バングラデシュの子供もは一度も日本に来たことはないと思いますし、会ったこともない子供がほとんどだと思います。そんな見えない相手のために、一分間の黙祷を捧げる、ということが出来る子供達の暖かさに、本当に胸があつくなりました。また本当に元気もらい、勇気づけられました。そしてこれがよりそうということ、共に生きるということ、なのではないかと思いました。必ずしも側にいることだけが、よりそうこと・共に生きる事ではないのだと、教えられた気がしました。

日本に帰って、また普段の生活が始まりましたが、今までとは違うと思います。バングラデシュで学んだこと、感じたことをこれからに生かしていきたいと思います。またバングラデシュの人々が日本に寄りそってくれたように、私もバングラデシュの人々と寄りそい、共に生きていきたいと思っています。

最後になりましたが、私がこんなにも充実した日々を過ごすことができたのは、私たちを送り出して下さったACEFのスタッフ、バングラデシュに着いてから帰るまで常に気を遣って下さったBDPのスタッフ、快く歓迎して下さいったバングラデシュの人々、そして一緒にツアーに参加したメンバーのおかげだと思えます。心から感謝申し上げます。本当に有難うございました。

スタディツアー出発日の1週間前、3月11日に東北地方太平洋沖地震という大規模な被害が出た地震がありました。私は地震が起きてから家からあまり出ることもなく、ニュースに釘付けになっていました。そんな中、河見先生からスタディツアーに参加する意思があるかどうかというメールを頂き、正直私はとても迷っていました。母に相談したら、最初は行くのを止められましたが、最終的には「自分のやりたいように」と気持ちよく送り出してくれました。

バングラデシュでは、全部で6校の学校を訪問させていただきました。この6校だけでなく、バングラデシュにある全部のBDPスクールが日本の子どもたちのために一斉に黙祷してくれたという話を聞いてとても感動しました。またバングラデシュの子どもたちが日本のことを本当によく知っていて、私たちのために「雨あめふれふれ」を日本語の歌詞で歌ってくれたりということもあり、とても嬉しかったです。日本の子どもがこの子どもたちのことを知らないというのがとてももったいないことだと思いました。もっともっと知ってもらうために、バングラデシュでそれを知ることができた私たちが伝えていくことが大事だと思いました。

また人と人との関係をつくることの大切さもバングラデシュで学ぶことができました。子どもたちとは言葉は通じないけどすぐに仲良くなれた気がします。それは子どもの方から花束や首飾りをくれたり、手をつないで一緒に歩いたりしてくれて、私たちのことを知ろうとしてくれたからだと思います。しかしBDPスタッフとはなかなか打ち解けることができず、それは自分から言葉が通じないからなどの理由で関係を築こうとする気持ちがなかったからだと思えます。アルバートさんとの話し合いで気づくことができました。次の日から仲良くなりたいと思ってたくさんお話したらすぐに打ち解けることができ、スタッフの方々の人の温かさをたくさん感じました。相手のことを深く知ろうとするからこそ、相手を思いやることにつながるのだなということを学びました。バングラデシュで子どもたちやスタッフの方などたくさんの友だちができたことをとても嬉しく思います。

このスタディツアーに参加して、バングラデシュに来ることができたことを私は誇りに思います。参加させてくれた両親、10日間一緒に生活したメンバー、日本から応援していただいたACEFの方々、様々な準備をくださったBDPのスタッフの方々などこのツアーを支えてくださった方々に本当に感謝しています。ありがとうございました！！！！

「つながっている」ということ

木戸 汐里

バングラデシュのスタディーツアーで過ごした約 10 日間は、私にとって人と人のつながりをたくさん感じる事ができたとても貴重な 10 日間でした。

バングラデシュといわれて初めは「貧困」「就学率が日本よりも低い」など、アルバイトさんにも指摘されたようにどこか日本との違いばかりに目がいってしまっていて、本当のバングラデシュを知らなかったように思います。

実際にバングラデシュで過ごしてみて、日本との違いを見ることよりも私たちが知らなければならないことがたくさんあることに気づかされました。現地のスタッフのあたたかさ、毎日花を渡してくれたり車の後を走って追いかけてくれたりする子どもたちの笑顔など、普段の生活ではなかなか感じる事の出来ないことをたくさん感じました。その中で助け合って生活をする事や、相手を想い関わることの大切さ、そこから生まれてくる幸せを私は知ることができました。

確かに生活が十分裕福ではないかもしれないけれど、自分自身いつもよりも笑顔でいる時間が長く、いつもよりもはるかに多く「ありがとう」という言葉を行いました。バングラデシュではこのような幸せな生活を送ることができるということをもっとたくさんの人に知ってもらいたいととても強く思いました。

また、今回のスタディーツアーに行く前に地震が起きて、このような状況の中で行くことに少し不安を抱きつつ、このような状況でも私たちには学ぶことができると信じて参加しました。実際に、BDP の学校に通う子どもたちが日本の被災者の方たちのために祈ってくれたこと、一人ひとり献金をしてくれたこと、福島の方のために折鶴を折ってくれたこと、たくさんの方たちが遠く離れている日本のことを想い、心を寄せてくださっていることを知りました。

そして、こんなにも想ってくれていることに対して私たちは何ができるのか考えてみました。大きなことはできないかもしれないけれど、きちんとその気持ちを受けとって日本にいる人に伝えていくことは私たちでもできるのではないのでしょうか。まずは家族や友達など身近な人たちからでもいいから少しでもバングラデシュの方々の想いや私たちが繋がっていることを感じてもらいたいと思います。

バングラデシュで体験したこと、私たちはみんなつながっていることなどをこれから心の中に持ち続けて生活を送りたいと思います。

最後に、このスタディーツアーを支えてくださった方々に本当に感謝いたします。ありがとうございました。

この時期だからこそ深い学び

青山学院女子短期大学 浅井 瑞穂

“「なぜ日本がこのような状況なのにあなたはバングラデシュに行くの？」と友達に質問されたらどう答えますか？」この質問をアルバートさんからされた時、私は何も答えられずただ涙を流していただけだった。しかし、今同じような質問をされたら私は胸を張ってこう答える。“今、私が最もしたいことは自分の人生について考えること、その為にバングラデシュに行く事はとても重要で今行かなければ一生後悔した。だから私は行ったんだ。そして私は行って本当に良かったと思っている。”と。

このツアーの一週間前、日本では東北関東大震災が起こり一度はツアーの開催も危ぶまれた。しかし参加者全員に強い決意があったからこそ、更に地震により決意がより強く固まったからこそ実り多いツアーになったのだと思う。このツアーでは私の想像以上のものが学べ、得ることができた。新鮮な発見ばかりの毎日の中で、「日本とバングラデシュの共通点はどこか」とアルバートさんに言われるまで、私は日本とバングラデシュの違いを見ようとばかりしていた事に気づかされた。それからは共通点は何か一生懸命考えた。そして誰にでも勉強をする権利、幸福を求める権利があることが一緒なのではないかと思うようになった。

私はスラム街のお宅訪問の際に少女から聞いた一言が忘れられない。その少女は今5年生で今年で義務教育は終了、お金がないので来年から働くとのこと。その少女に前田さんが「Do you like study?」と質問したら即答で「Yes!」と答えた。今まで勉強は義務と思いながら学校に通っていた私にとってこの言葉は“勉強とは何か、誰の何の為にあるのか”など様々なことを考える機会となった。もしかしたらこの少女は5年生まで勉強ができているという点で良い方なのかもしれない。しかし、お金という経済問題によってこの子の“勉強したい!”という気持ちを封じてしまっていることも事実であった。そして、私自身日本に帰ったら勉強に臨む姿勢を見直すべきであると思った。

このツアーで私は本当に様々なものを得ることができた。友達と思えるバングラデシュの人々、震災を含めた様々なものについて考える機会、言語に対する新たな興味、祈る気持ち・シェアする大切さや喜びなど本当に数えきれない。しかし、一つ言えることは経済的豊かさと人間的豊かさは決してイコールではないということだ。バングラデシュで出会った人々は私たちに最高のもてなしをしてくれ、9日間心底笑わせてくれた。本当に「なぜ私たちにここまでしてくれるの?」と疑問に思うぐらいしてくれた。だからこそ、もう一度バングラデシュに行きたい!!と思うぐらい私はバングラデシュが大好きになった。私はここでの学びを必ず日本での学びの一步にしたい。そして、いつかまたバングラデシュに行きたいと思う。

最後に、ACEFを始め、BDPスタッフ、このような状況の中送り出してくれた両親に心から感謝したい。そして、ツアーと一緒に参加した10人!この最高のチームでバングラデシュに行けて私は本当に幸せでした。ありがとうございました。

ACEFという団体の存在を知ったきっかけは、私の母が教会附属の幼稚園で教諭をしていたからです。

このスタディーツアーは、私の人生において本当に貴重な体験でした。いまでも印象に残っているのは、訪問した学校の全ての生徒が、皆目をきらきらさせながら勉強をしている姿です。最初はここで学んでいる生徒は勉強が好きなんだろうなと感じていました。しかし、訪問する学校が増えるにつれ、私は焦燥感をいただきました。なぜなら、日本という恵まれた環境の中で約16年間、勉強してきました。けれど、あんなに目をきらきらさせて勉強をしていた時期は、私にあったのだろうか考えるようになりました。

そして、BDPの総責任者であるアルバートさんとの会話をしている際に、自分が思っている事の半分も伝えられず、アルバートさんの思いを半分も他のスタディーマンバーに伝えることができなかったのではと気が付く時がありました。自身の語彙力の乏しさを痛感し、もっと英語を勉強しなくてはならないと思いました。その思いを改めてこのスタディーツアーを通して強く感じることができました。私が思い描いている「国際人」になるためには、自分が何をもっと勉強しなくてはならないのか気づかされました。バングラデシュから帰国後、様々なことが明確になりました。

ACEFの方々、我々のスタディーツアーを支えてくださったBDPのスタッフ、そして今回の参加メンバーには本当に感謝しています。本当に、ありがとうございました。

バングラデシュから帰国して早くも一週間がたとうとしているが、毎日のように撮ってきた写真を眺めながらあれは夢か幻だったのか……と考えている自分がいる。もちろん夢でも幻でもない、現実だったのだが、この日本といういわゆる「先進近代国家」にいと、見渡す限り豊饒な緑したたる自然の中、満天の星に癒されて、無数の蛍が飛び交う水田をいつまでも飽きることなく眺めていたあのひと時は、絶対ありえない“非現実”ではなかったのか……とさえ思えてきてしまうのだ。記憶の薄れる前に早く感想を書こうと思っていたのだが、今回に限って言えば記憶は薄れるどころか、ネトロコナの生活を軸にどんどんその色彩を濃くしているようにさえ思える。バングラデシュの美しい女性たちが纏っていた、あの鮮やかな彩りのサロワ・カミューズやサリーのように。

とにかく、何もかもが新鮮で衝撃的だった。これほどの人の優しさや、絆を大切に思う心を感じたのは(家族以外では)本当に久しぶりだったような気がする。BDPのスタッフの方はもとより、全てのバングラデシュの方が親切だった。それは交差点のど真ん中でエンコした(!)車を押す……という異常事態の中でも感じたことだ。ましてや純粹で真っ直ぐな瞳を持った子どもたちの心の清らかさといったらもう……なぜ、あんなにも疑いのない、人間に対する信頼感に満ち溢れた眼差しができるのだろう。それはきっと「近代文明」という人間性を破壊する似非文化(ちょっと言い過ぎかもしれないが……)に裏切られた経験がないからなのではないかと思う。それに比べて、「近代文明国家」「先進国」日本は、獲得した利便さの裏でどれほど多くの「心の豊かさ」を失ってしまったことだろう。今回のスタディ・ツアーはそのことを深く考えさせられた十日間でもあった。

もちろん、参加するに当たっては、おそらく他の方もそうであったように「いま日本を留守にしておいて来てしまっているのか」という思いとの激しい葛藤があった。それに理解を示して後押しをしてくれた家族や「しっかり学んでください」と仰って下さった青山学院の高等部部長には、心の底からお礼を言いたい。もちろんそしてそれを支えて下さった、事務局の儀子さんやチームリーダーを務めて下さった短大の河見先生にも……そして何よりもアルバートさん！私のかたくなな心の扉を押し開いた、あなたの優しさは忘れない。あなたの「何のためにバングラデシュに来る決断をしたのですか」という本質を衝く質問に、どのように答えたらよかったのだろうか……。「災害の先達としての貴国に学びたい」「教育の原点を見つめなおしたい」もしくは「神様に呼ばれたから」などといった体裁のいい答はいくつも思いつくけれど、それは恐らく本心ではない。それはきっと「アジア人の心とは何か」を探し求める、究極の“自分探し”だったのに違いない。

では……その「自分探し」の答えは見つかったのだろうか。残念ながら、今のところは「否」である。しかし、その子どもたちと見つめあった瞳の確かさの中に、また握り合った手の力強さの中に、答えの片鱗は掴むことができたような気がする。願わくは、再びあの美しい黄金の国を訪れてみたい。そこにあった「何か」を確認する意味でも――。

今回のツアーは、東日本大震災直後という今までにない状況の中で行われた。従って、どういうツアーになるのか、落ち着いて学ぶことのできるツアーになるのか、全く予想できないまま臨んだ、というのが正直なところである。しかし結果として、ひと味違った、深い学びのツアーとなったと言える。

最初のネトロコナ学校訪問で知らされ驚いたことは、すべてのBDPスクールの子どもたちが、日本の大震災のために、全員一タカ（約1.3円）ずつ献金しお祈りを献げてくれていたということである。私達は感動で胸が一杯になりながら、その場で子どもたちと一緒に一分間の黙祷を献げた。さらに最後に訪問したダッカのスラムの学校では、沢山の折り鶴を受け取った。福島の人たちのために、という祈りを込めて折り方を覚え、一所懸命折られた鶴の山を、私達は涙と共に受け取った。小さな一タカ、小さな鶴に込められているバングラデシュの子どもたちの思いが、どれほど多くの励まし、生きる元気を私達に与えてくれることであろう。

首都ダッカは大きく発展してきているが、依然としてバングラデシュは貧困やインフラ不足に苦しんでいる。ネトロコナでは、計画停電どころか一日の半分以上が停電である。トイレも水浴びのシャワーも、井戸の水をバケツに入れて行く。道路事情も交通手段もかなり悪い。私達ツアー参加者もそのような限られた資源の中で生活をした。しかし決して嫌でなくむしろ楽しかった。なぜか。アルバートさんは、僅かなものを皆でshareする喜びを知るからではないか、「より小さな僅かなものを通して私達は幸福を学ぶことができる」と語ってくれた。同感である。子どもたちの一タカ、折り鶴とあわせ、僅かなパン五つと魚二匹が何千人もの空腹を満たす「五千人の給食」（マタイ 14：13-21）の意味を思い起こさせるツアーであった。

そのようにこころが満たされた私達は、さらにこころの解放を経験した。子どもたちだけでなくBDPスタッフに心を開くようになるにつれ、参加者自身がますます自由になり、自らのあり方についてもより深く問いかけようになり、そしてお互いにさらに忌憚なく語り合えるようになっていったのである。ただしそれは、私達を暖かく包み込むように昼夜なく関わってくれた、BDPスタッフのおかげであることを忘れてはならない。

ネトロコナでのBDPスタッフとの交流のタベは、二日目には歌と踊りの宴会となって盛り上がり、打ち解けあい、スタッフとの間に何となくあった緊張感、壁が解消していった。そしてアルバートさんはしっかりと、その壁の原因は何であるのか、という問いかけも私達に発してくれた。

私自身、BDPスクールの子どもたち、BDPスタッフの子どもたちやツアー参加学生への関わり、子どもたちやスタッフとの関わりの中で大きく変わっていく参加学生の姿に触れるなかで、自分が何のために教員になったのか、そして教員は何をすべきなのか、という問いかけを受けた。日々の忙しい生活の中で見失いつつあった自分の立脚点、土台、原点を取り戻すためのスタディ・ツアーとなったのである。

私は今回リーダーとして参加させていただいた。しかし皆を導いていったとか、苦労をしたといったことはほとんどなかった。むしろ参加者に励まされることの方が多かった。震災の傷跡の深刻さが明らかになってきた3月14日段階で、皆にもう一度よく考えて参加不参加を決めてほしいというメールを送ったのだが、果たしてその日のうちに、全員から強い参加の意志がある旨の返事をもらった。私自身本当に決行してよいのか迷うところが若干あったのであるが、いただいたメールに感動し、励まされて、よいツアーにするために全力を尽くそうという決意を改めて与えられた。

リーダーがほとんど手を加える余地なくよきツアーを作り上げてくれた、そして私自身に対し自己の原点を学び直す機会を与えてくれた、ツアー参加者とBDPスタッフに、心から感謝申し上げたい。

日本人が置き忘れたもの

前田 恭子

4月1日よりACEFで働くことになり、「その前にスタディツアーがあるから行って勉強するように」と言われ、初めてのバングラデシュへの旅に参加いたしました。国名を知っている程度の無知ぶりで、仕事の準備のために、行って現地の状況を見てくると言う気持ちでした。

そして、3月11日に未曾有の大災害が東北から関東までを襲い、ツアー実現が危ぶまれた時、参加を希望するツアーメンバーの学生たちの強い意志を知り、今まで少し持っていた「今どきの日本の若者」に対する偏見を恥ずかしく思いました。こんな時だからこそ大きな学びがあるのではないかと、言うメンバーの気持ちの通りに、大変大きな実りのあるスタディツアーになり、私はACEF運動に対する強い気持ちを育てることが出来ました。

ダッカでは、アジアの開発途上国では良く見る交通渋滞と、怒涛のようなリキシャやミニタクシーの群れを経験しましたが、農業が中心であるネトロコナでは、美しく続く水田、ゆったりと流れる川と夕焼け等、何か懐かしい、戦前の日本の田舎にタイムスリップしたような気持ちになりました。（私は戦前は知りませんが）子どもたちの真っ直ぐな瞳、花を摘んで渡してくれる時のほにかんだ笑顔、弟や妹の世話をしながら遊んだり家の手伝いをする子ども、これは昔の日本だと思いました。

BDPが運営する学校を幾つか訪問した際、子どもたちは本当に熱心に勉強していました。女性が殆どの先生たちは威厳があり、生徒は先生の言うことをよく聞きます。そして、私たちを教室に迎えてくれたとき、どの学校でも「津波」の事を質問されました。「本当に悲しい」と見舞いの言葉を掛けられ、BDPスクールの全ての学校で生徒たちが、同じ日・同じ時間に津波の被害者のために祈ってくれた事を知り、胸がいっぱいになりました。その子どもたちが一人1タカ(1.3円程度)ずつ寄付してくれたというのです。

ダッカのスラムで訪問した生徒の家では、その子はとても頭が良いのだが、家が貧しくて小学校を終えると上の学校へは行けないと聞き、「勉強が好き」と明るく言うのを聞いて複雑な気持ちになりましたが、そのような子どもも「日本の津波に遭った子どもたちは、今どうしているのか」と心配し寄付をしてくれたのです。日本の津波被害者の子どもたちが大変厳しい状況にある旨説明すると、先生が涙を拭いていました。大人

も子どもも、人の悲しみを自分の悲しみとして心を寄せる、温かく優しい人たち。日本人は、経済的には彼らより恵まれているのですが、そこに辿り着く前に、昔持っていた同じような温かく優しい心を、どこかに置き忘れてしまったのではないかと思います。

食事は素手で食べ、トイレにはペーパーの代わりに水桶と柄杓、シャワーも無く柄杓で水浴びの毎日、一日の大半は停電をしている生活でしたが、ツアーメンバーは皆すぐに慣れ、当たり前のように過ごして毎日を楽しんでいました。それは皆の順応性の高さに加え、出来るだけ快適に過ごさせてあげようと云、うBDPスタッフの心遣いが大きく影響していたと思います。メンバーの学生たちが、自分たちの心の中に問いかけて色々考えることが出来たのも、毎日のように一緒に歌い語り合ったBDPスタッフを信頼し、その言葉や彼らの誠実さに心の扉を開いたからだと思います。そこでは少々の不便さ等問題にはならないでしょう。

ネトロコナで夕日を見るために歩いていると、両手に4人ずつぐらい子どもたちがつながっていました。彼らは、リキシャやバイクが通る度、道の端へ私を寄せて庇ってくれました。大人での私がするべき事を小さな子どもたちがしてくれるのです。本当に、人に手を差し伸べることに躊躇をしない、素晴らしい人たちでした。

彼らの家を訪問すると、最低限のものしか置いておらず、「何も無い」とさえ言えるものです。しかし、彼らは不幸せには見えませんでした。多くの物に囲まれて、鬱々と暮らす日本人。私たちは幸せなのでしょう。

勿論、それぞれの家庭には事情もあり、子どもたちの置かれている状況は厳しいものがあるに違いありません。しかし、学校に行けることを心から喜び、輝く瞳で勉強する彼らを見て、その笑顔の為に、手を差し伸べる事が出来ることにこの上ない喜びを感じ、やりがいのある仕事に巡り会った幸せを、神様に感謝せずにはられません。

津波の後、日本でも多くの方が、困っている人たちを支えたいと、ボランティアで活動をしています。きっかけとなった災害は悲しい出来事ですが、様々な形で人と支えあうと言う日本人が持っていた美德を思い出せたことは、とても大切な事と思います。今だからこそ、今回バングラデシュで感じた事を伝えれば、多くの人の共感を得られるのではないかと思います。人種・宗教を超え、支えあい助け合う気持ちを皆が持ち続けられますようにと祈らずにはられません。

友情の絆

井上儀子

3月11日発生の東日本大震災はACEFスタディツアー出発9日前でした。想像を絶する大惨事に心が痛み、日本がこんな状態のときに、スタディツアーを実施してもよいのか迷いました。ツアーリーダーより一人ひとりの参加意思を確かめてもらい、不安の中にも各自しっかりとツアーへの参加動機が堅固なものとなっていることを知り、大変嬉しく励まされました。参加者の中には家族が被災し、避難所生活を強いられている方もいました。他人事ではなくみな辛い思いを背負いながら、日本で私たちのスタディツアーのために祈っている方々がいることを思いつつ、生半可な気持ちではなくツアーに臨めたのではないかと思います。

BDPからは地震津波発生後すぐにお見舞いのメールとお見舞金の申し出がありました。何とスタッフ、先生方の少ないお給料の中から3日分を被災者の方々に贈ってほしいとの申し出です。貧しい先生方のお給料の1日分でもどれだけ大切なものかよくわかっているのです、本当に胸が痛みました。

そしてさらに私の胸を打ったのは、3月20日(日)BDP全校(6地域75校)一斉に日本のお友だちのためにと、祈りの集会が行われたのです。先生も子どもたちもみな黒いリボンを二つに折ったものを左胸につけ、一人1タカずつ持ち寄って募金箱に入れました。この話を聞いたとき、私は目頭が熱くなり、何と答えていいのか言葉につまってしまいました。翌日学校訪問したときに、子どもたちと一緒に一分間の黙祷をささげました。ツアーリーダーの河見先生が感謝のあいさつをなさいましたが、感極まって声が震えているのを見て私は涙があふれるのを抑えることができませんでした。

どこの学校を訪問しても村の人たちから日本の地震津波について質問が出され、日本の被災者のために祈っていることを知らされました。BDPスタッフも先生方も、怖い思いをした私たちのそばに一緒にいたかったと、真剣な眼差しでおっしゃってくださり、これこそ本当の友情ではないかと熱い思いに包まれました。

私たちが毎日こつこつと働いて築いたものが、予期せず一瞬にしてすべてのものを呑み込んで流されてしまうことが現実にかかることを目の当たりにして、私たちの人生の中で何が一番大切なのかを考えさせられました。「あなたのそばにいたかった」と言ってくれたスタッフ、先生。今、日本は世界中から、「ひとりじゃない。わたしたちがついている。」と呼びかけられています。一度も会ったこともない人のためにも、思いやり、苦しみを共にし、寄り添うことはできるのです。今回私は、本当に私たちが強い友情で結ばれていることを確信しました。こんなに嬉しいことはありませんでした。この友情の絆をお互いにこれからも強く深くしていきたいと願っています。

バングラデシュに寺子屋を贈ろう

教育はすべての協力の基です。会員としてご協力ください。

ACEF



会員募集

個人会員 年額1口 5,000円

団体会員 年額1口 50,000円

学生会員 年額1口 2,000円

一時寄付 随時 金額自由

郵便振替 00100-0-185540

特定非営利活動法人アジアキリスト教教育基金

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-26

TEL. & FAX. 03-3208-1925

E-mail: acef@acef.or.jp

<http://www.acef.or.jp>